宇都宮市立宝木小学校第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	73.9	73.1	71.8
	生命・地球	72.1	67.9	67.8
観点	科学的な思考・表現	70.3	66.5	65.0
	観察・実験の技能	72.0	69.7	68.4
	自然事象についての知識・理解	73.6	71.6	71.4

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○「ものと重さ」の知識を問う問題では、市や県の平均を約2ポイント上回っており、正答率も90%を超えている。</p> <p>○「電気の通り道」については、県や市の平均を5ポイント以上、上回っている。</p> <p>●「電気の通り道」に関して、4問中3問の平均については、校内の正答率が70%に達していない。ことから、理解を深める必要がある内容であると思われる。</p> <p>●「じしゃくのせいしつ」については、校内正答率が54.8%と低い。特に、記述で答える設問の校内正答率が21.0%とかなり低い。</p>	<p>・実験や観察を通して、実際に体験している内容については、身につけていることが多いので、今後も実験や観察をできるだけ多く取り入れるようにする。</p> <p>・磁石だけではなく、全体的に知識を活用しながら考える問題が苦手である傾向が見られるので、基礎的な知識の定着を図ることはもちろん、考える場面をできるだけ作っていききたい。</p>
生命・地球	<p>○「こん虫と植物」の知識を問う設問では、県や市の平均よりも5ポイント以上、上回っている。</p> <p>○「太陽と地面のようす」では、思考・技能・知識すべてについて、県や市の平均よりも5ポイント以上、上回っている。</p> <p>●「身近なしぜんのかんさつ」についての校内正答率は56.2%と低い。中でも「虫眼鏡の正しい使い方」の校内正答率は39.7%と特に低く、技能が身に付いていない児童が多い。</p> <p>●「方位磁針の正しい使い方」についても、校内正答率が48.9%と低く、虫眼鏡の使い方と同様なことが言える。</p>	<p>・生命・地球の分類に関しては、観察用具の使い方について課題が見られる。今後、顕微鏡の使い方も学習することになるので、一つ一つ丁寧に教えながら、実際に活用して定着を図っていく。</p> <p>・「物質・エネルギー」の領域と同様で、持っている知識を使いながら考えて答える問題に課題が見られるので、「～だから、・・・なる。」など知識を活用しながら考える場面を作っていくようにする。</p>